

# 日本作業療法教育研究会ニュース 第 68 号

2018年 12月 15日発行  
日本作業療法教育研究会

＝紙面案内＝

1～5面： 学術集会報告  
6面： 新理事 紹介  
7～8面： 事務局からのお知らせ

事務局  
〒171-0033 東京都豊島区高田 3-6-18  
日本リハビリテーション専門学校 作業療法学科  
近野 智子  
TEL:03-5954-6511 (代表) FAX:03-5954-6544  
E-mail otkyoiku@gmail.com

## 第23回

## 日本作業療法教育学会が盛大に開催されました



まだまだ暑さも残る10月中旬、岡山大学病院にて第23回日本作業療法教育学会が開催されました。今回のテーマは、「作業療法教育新時代 ～養成教育の方法論考究～」で、籾脇大会長のもと盛大に開催されました。例年より参加者が増え91名（会員62名 非会員29名）の参加でした。この学会の趣旨は、養成教育と臨床教育、養成校教員と臨床実践者が一体となって作業療法教育の方法論を深く考え、その意味や本質を明らかにすることです。平成32年度より養成施設の指定規則と指導ガイドラインが大幅に見直しされます。学生の主体性を引き出す機会として、まさに作業療法教育の新時代を迎えようとしています。

講演では、日本作業療法士協会より、昨年に引き続きまして陣内大輔教育部長に来ていただきました。陣内教育部長には「作業療法教育新時代に向けた作業療法士のあり方」をテーマに講演していただきました。また、特別講演といたしまして、1人目は聖隷クリストファー大学の津森伸一先生をお招きして「リハビリテーション教育におけるICTの活用」について講演いただきました。2人目は、済生会小樽病院の三崎一彦先生をお招きいたしまして「臨床実習における教育法、SV・CE育成法」について講演していただきました。シンポジウムでは、「指定規則改定に向けて、臨床教育の方法論を考える」と題して、鈴木孝治先生・坂本安令先生・小林幸治先生にトピックスも交えてお話ししていただきました。また、1日目の午前中からワールドカフェ「養成教育と臨床教育が協

働するためにできること」や口述発表3題や「フラッシュトーク」形式での発表14題を行い、大盛況でした。1日目の終わりには、学術集会の最大のイベント「懇親会」を岡山大学病院内の会場をお借りして、情報交換会を行いました。

# 研修会の様子



# 懇親会の様子



## 第 23 回日本作業療法教育学会を終えて

大会長 籾脇 健司（吉備国際大学）

2018年10月13日（土）・14日（日）に開催された第23回学会は、盛会の内に終了致しました。参加者数は会員62名、非会員29名の計91名であり、前回の東京開催の70名を大きく上回りました。これは10月5日に指定規則の一部を改正する省令が公布され、まさに時宜を得た学会であったためと考えられます。また、今回の学会では、養成校以外の臨床施設等に所属されている方の参加が27名（29.7%）もありました。この結果は、学会のテーマを「作業療法教育新時代～養成教育・臨床教育の方法論考究」と定め、前回に引き続き、臨床教育にも大きく焦点を当てたことで、この学会が養成教育・臨床教育を包括的に捉えて議論できる機会となることが認知されてきた表れではないかと思えます。

さて、今回の「方法論考究」というテーマには、いくつかの願いが込められていました。もちろん、早急に新しい指定規則に対応した準備を進めなければならない状況ですから、先進的な教育に取り組まれている方々より、具体的な方法論に焦点を当ててご講演、ご発表をいただくことで、きわめて実践的な知識・技術を伝達したいという願いが第一にありました。それに加えて、真に効果のある教育に取り組むために、個々の方法論を考究し、その背景にある理論等を合わせて理解していくことの重要性をお伝えしたいと思えました。特別講演にてご登壇いただいた津森伸一先生が、ポートフォリオやルーブリック評価を適切に運用するためには、構成主義（社会構成主義）の考え方を十分に理解する必要があることを強調されていました。このような意味で方法論を考究することが、本学会の参加を通して少しでも促進されたのであれば、主催者として幸いと考えています。

最後に、ご多忙の中、陣内大輔先生には日本作業療法士協会教育部長の立場から現状の解説と今後のあり方について、津森伸一先生には教育工学の立場からICT活用と教育観について、三崎一彦先生には臨床教育者の立場から教育理論に基づいた診療参加型実習の実践について、貴重なご講義いただきました。また、鈴木孝治先生、坂本安令先生、小林幸治先生には、臨床教育の質をいかに高めていくかについて、非常に興味深いご発言と議論をしていただきました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

## ワールドカフェの試み

関西福祉科学大学 酒井ひとみ

学会のテーマに合わせて、初めての試みであったが、学会プレプログラムとしてワールドカフェを行った。参加者41名、飲み物とお菓子を食しながら和気藹々の雰囲気中90分のワークショップはあっという間に終わった。フューチャーサーチという手法で理想的な未来のシナリオを描いたり、実現のた

めのアクションプランを立てる事を流動的なグループメンバーとシェアしたり討議した。ワールドカフェそのものも不慣れなコンビでの不安な開催だったが、参加者の積極的な参加と協力で過ごした活気ある時間であった。参加者の感想は、別記事に譲るとして、進行役としては、模造紙に描かれた希望ある未来の羅列に、役目をなんとか果たせたのではないかと安堵した。

司会進行 : 藪脇健司 (大会長, 吉備国際大学), 酒井ひとみ (関西福祉科学大学)  
ファシリテーター : 藤井有里 (関西福祉科学大学), 西村昭宣 (東大阪山路病院),  
大谷将之 (障がい者支援センター「てらだ」)

## 第 23 回日本作業療法教育学会に参加して

はくほう会医療専門学校赤穂校  
作業療法学科 亀山 一義

作業療法士養成教育に従事し 10 年目を迎えました。変化が激しく、新しい知識や技術が要求される知識基盤社会の中で、作業療法士も生涯にわたって知識や技術を身につけることが求められるようになってきました。卒業後も能動的に学習する作業療法士を養成できるように試行錯誤を繰り返す中で、自身のスキルアップのために日本作業療法教育研究会に入会しました。今回、地元岡山で学会が開催されることを知り参加させていただきました。

第 23 回を迎えた学会のテーマは「作業療法教育新時代～養成教育・臨床教育の方法論考究～」でした。養成校の教員のみならず、臨床実習を通じて作業療法教育に尽力されている多くの作業療法士の方々が参加をされていました。学会では、ICT を活用した講義の実践例や臨床実習における教育法、SV・CE 育成法についての特別公演がありました。多くの理論や思い、そして強い意志を持って教育に取り組んでおられる先生方の公演は、熱気に満ちあふれ非常に刺激的でした。また、フラッシュトーク&ポスター発表では、多くの意見交換の場となりました。大規模な学会とは異なり発表者と聴取者の距離が近く、活発なディスカッションを行うには最適の環境でした。私も発表者として参加しましたが、多角的な視点からの意見により自分の思考がまとまっていく過程をはっきり認識することができました。2 日間の学会を通じて、多くの学びと活力をいただきました。

最後に、このような学会の開催を企画・運営していただいたスタッフの方々に感謝を申し上げます。この経験を作業療法士養成教育に活かしていきたいと思っております。



## 学会に参加して

熊本総合医療リハビリテーション学院  
教育部 作業療法学科 淵野浩二

秋晴れの天候に恵まれ日中は暑さが残る中、2018年(平成30年)10月13・14日の2日間にわたり、岡山大学病院の基礎医学講義実習棟において第23回日本作業療法教育学会が開催されました。『作業療法教育新時代～養成教育・臨床教育の方法論考究』をテーマに藪脇健司氏(吉備国際大学)が大会長を務められました。総参加数は100名程であり、例年教育現場からの参加が大半を占める学会集ですが、今回は臨床現場からの参加数が増えたとの報告があり、臨床と教育が一体化したものとなりました。

開会では宮前珠子会長より挨拶が行なわれ、冒頭において『新しき酒は新しき革袋に盛れ』との新約聖書のことわざを引用され、2020年度より施行される理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の改定に伴い、各専門学校はじめ大学において新カリキュラム改定の模索をされている所ではないかとの問いに『教育パラダイムの転換期』を強く印象づけるものでした。

基調講演①では日本作業療法士協会常務理事・教育部長の陣内大輔先生により2018年10月5日付で指定規則の一部を改正する省令、指導ガイドライン、Q&A、臨床実習指導者講習会の開催指針等が都道府県知事宛に発出された全容等についての解説と補足説明が行なわれ、後半は今後の課題として臨床実習指導の見直し、教育ガイドライン(コアカリキュラム)の見直し、コンピテンシー教育、臨床実習共用試験、「作業療法士学校養成施設連絡会(仮)」の設置、「生涯教育ガイドライン(キャリアパス)(仮)」等の検討について説明されました。

2日目の特別講演②においては、済生会小樽病院の三崎一彦先生が「臨床実習における教育法、SV・CE教育法」のタイトルで大きく2つの問い(臨床教育の主体は誰ですか?)良い臨床教育“とは何ですか)に対してご講演されました。まず臨床実習の目的について、臨床実習の主体は学習者であり、良い臨床教育は自己教育力を高めることであることを基盤に、教育理論に基づく方法について概説されました。中でも成人学習理論(自己決定型学習)に沿った『学習者の身近な現実問題→問題探索→解決型学習→省察・内省→解決型学習→問題解決』のプロセスを反復するために教育者は働きかけることとし、相互関係の中で成長を促すことが重要であるとの説明はとても興味深く納得のいくものであると同時に必要性を感じました。また、今後作業療法の臨床実習では、卒業時まで習得しなければならない知識・技術・態度に加え、卒業後も学習者自身が自己主導的に学びを進める為に養成校と臨床実践者(実習受入施設)の連携が必要不可欠であると思われました。

シンポジウムでは「指定規則改定に向けて臨床実習の方法論を考える」をテーマに日本作業療法士協会の立場より藤田医科大学の鈴木孝治先生、実習施設の立場より横浜市立大学附属市民総合医療センターの坂本安令先生、養成校の立場より目白大学の小林幸治先生がそれぞれの立場での報告されました。いずれも診療参加型実習＝作業療法参加実習においては養成校と実習施設が両輪となって協力してく

ことが重要であること、併せて卒前・卒後教育においては協会と養成校で目指す作業療法士像を明確にし、目標と方針の設定のうえ実習施設との連携を進めて行くことがより一層求められていくことが確認できました。今回も有意義で実りの多い学術集会となりました。また、初日に行われたレセプションにおきましても白鳳短期大学西井正樹先生の名司会の下、参加者の自己紹介や特技、出身地の名産物などについてユーモアあふれる掛け合いの中、盛大かつ密な情報交換ができました。最後に今大会の籾脇健司大会長はじめ、運営にご尽力いただいた役員の方々に心より感謝を申し上げます。新時代の幕開けです。これからも情熱を持って作業療法教育に取り組んでいきたいと思っております。

## 事務局だより

【じむきょく】 - 事務局よりお知らせ -

### 会員募集のお知らせ

作業療法教育研究会では、会員を募集しています。

この研究会では、より質の高い作業療法教育の実現を目指して、教育現場における様々な問題提起や問題解決に取り組んでいます。

主な活動は、年1回の学術集会、年2回の学術誌「作業療法教育研究」の発行、年2～4回のニュース発行、ホームページを通じた情報発信と情報共有です。現在の会員数 248 名、賛助会員 1 法人です。

作業療法士教育に興味、関心のある方は、是非ご入会ください。お待ちしております。

詳細は、日本作業療法教育研究会ホームページ 入会案内 <http://www.joted.com/> をご覧ください。

入会金：1,000 円 年会費：3,000 円 賛助会員 一口 10,000 円

振込口座 郵便振り替え 01320-2-58224 日本作業療法教育研究会

問い合わせ先 事務局 東京都豊島区高田 3-6-18

日本リハビリテーション専門学校 近野智子 E-mail: [otkyoiku@gmail.com](mailto:otkyoiku@gmail.com)

### 「作業療法教育研究」投稿原稿募集のお知らせ

日本作業療法教育研究会では、機関誌「作業療法教育研究」の発刊を年2回行っています。広く会員の皆様からの論文の投稿をお待ちしております。機関誌にあります投稿規程をご覧ください。規定に沿って準備し事務局あてにお送りください。ご不明な点などございましたら、研究会事務局までお問い合わせください。なお、査読は受付日順に行います。原稿受理日によっては、次号の掲載になることもありますので、あらかじめご了承ください。

(ホームページ <http://www.joted.com>)

